



## あけましておめでとございます

年末年始何かと忙しい中、ご家族の皆様はお元気に過ごされましたでしょうか。子どもたちにとっては、さまざまな体験ができ、楽しいお正月休みだったのではないのでしょうか。

さて、いよいよ今年度もあとろヵ月となりました。この時期は各クラスとも総まとめの大切な時期です。子どもたちが経験したことを生かし、主体性や社会性を身につけていけるよう保育を行っていきます。また、子どもたちの思いをしっかり受け止め、充実した時間を過ごしていければと考えています。

新しい年を、子どもたちに負けずに成長していけるよう、私たち職員も力いっぱいがんばりたいと思います。

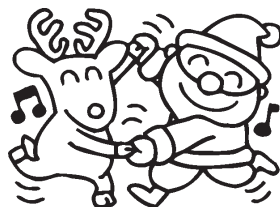
今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

## 2010/12/25 SUN太お楽しみ会

年末のお忙しい中、多数の方がご来場頂き本当にありがとうございました。おかげさまで大勢の方に見守られながら、無事に楽しく終了することが出来ました。

後日アンケートを実施いたしますので、ご協力の程よろしくお祈りいたします。

保育展での子どもたちの発表をホームページで公開しています。ぜひご覧ください。視聴環境のない方は、保育園1階のパソコンをご利用ください。



SUN太お楽しみ会の写真(プロカメラマン撮影)は、1月下旬頃より掲示する予定です。お楽しみに!!

## 1月の行事

- 6日(木) 避難訓練
- 12日(水) 調理保育(くま)
- 17~21日 身体測定
- 19日(水) 体育指導(幼児クラス)
- 20日(木) お誕生会
- 26日(水) おやつ試食会
- 26日(水) 保育園継続出張受付 ※うさぎ組 16:00-20:00
- 27日(木) 発達・心理相談
- 27日(木) 園内職員研修



## 2月の予定

- 3日(木) 節分の日会
- 8日(火) 体育指導(幼児クラス)
- 8日(火) 園内職員研修
- 9日(水) 避難訓練
- 10日(木) 職員会議
- 21~25日 身体測定
- 24日(木) お誕生会
- 25日(金) 調理保育(ぼんだ・くま)

## 七草粥

疲れた胃腸に  
早春の風味を



セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロの七草を春の七草といい、1月7日に食べる慣わしです。今ではスーパーにもセットで売っていますので、手軽に作れます。

お正月疲れた胃腸にやさしい七草粥、ご家庭でもお試しください。



## 「わがままと自己主張」について

昨年実施した保護者の方との面談で、お子さんの「わがまま・自己主張」についてのご相談が多くありました。そこで「わがまま・自己主張」についてとても示唆に富んだ文章がありましたのでご紹介させていただきます。

汐見稔幸著「元気になる子育ての本① 0～3歳 能力を育てる 好奇心を引き出す」(主婦の友社)より抜粋

### わがままたちの赤ちゃんなんていない

ほんとうのわがままとは、「こういうことを言うのはむちゃなんだ」「お母さんも周りの人も迷惑するんだ」とわかっていて、「したい」と主張することですから、0～2歳のころにはわがままたちではありません。3～4歳になって、自我ができてから出てくるものです。0～2歳期で「わがまま」「わがままでない」というのは、「甘えがひどい赤ちゃん」「淡泊な赤ちゃん」といいかえたいほうがいいと思います。甘えるというのは、発達上欠くことのできない大事な行為ですから、十分に甘えさせてあげてください。

「甘え」と「甘やかし」と混同して使われていますが、「甘やかし」は、本来自分でできることをさせないで大人がやってしまうとか、人に迷惑がかかるかわかっていて、かたがたをさせることですから、こちらはいわゆる「わがまま」です。

一方、「甘え」は心の安定を求めて信頼できる相手に受容を求めることです。そして十分に満足いくまで甘えることができると、心が満たされて、再び自分をとり戻すことができます。お母さんやお父さんに甘えてくるときは、何か心の動揺があったときですから、しっかりそれにこたえてあげることがとてもたいせつなことです。それをわがままと勘違いして、親が厳しい態度をとると、子どもは心のエネルギーを補充することができなくて、精神的に不安定なままになってしまいます。

### 自己主張は大事なこと

一方、自己主張というのは自分の感情や欲求に対して徹底的にこだわることです。たとえばコップで飲むのがまだへたな赤ちゃんに手を添えて飲ませてあげようとすると、怒ってコップごとひっくり返したり、お母さんが用意した服が気に入らなくて、無理に着せようとする泣きわめいたり。

自分の感情や欲求を出せない子より、いずれどこかで折り合いをつけるにしても、自分を主張できる子のほうが、よほど将来が楽しみといえます。

3歳を過ぎると、いままではダダをこねるような自己主張だけだったのが、きちんと理由の言える自己主張をする子が出てきます。

### 親子がぶつかったときは

「自己主張のすすめ」を述べているわけですが、実際に毎日の育児の場面では、自己主張を歓迎してばかりはいられないということもよくあります。パジャマから服に着かえさせようとしても、いやがって逃げ回ったり、出

勤時間の迫ったお母さんといっしょに保育園へ行くのに、ボタンを自分ではめる、とやってうまくできず、かんしゃくを起こしてますます時間ばかり過ぎてしまったり。

親子のぶつかり合いの場合、どこかで妥協しなくてはならないのですが、実害がなければ、子どもの言い分を認めてあげて、親が譲ってもいいのではないのでしょうか(保育園に行くという場面は時間の余裕を持って対応すると、気分の転換をはからせるとかなんらかの対策が必要でしょう)。

親が子どもに譲るといっても、他人に害を及ぼす場合にはきちんと「ダメ」と言ってけじめをつけます。これを許していると、ほんとうのわがままになってしまいますから。

わが家の息子も物心ついてからずっと黄色い服しか着なかったため、祖母がお土産に持ってきてくれたかわいい服でも絶対に着ることはなく、「かわいくないね」と言われていました。この子はこだわりの子で、一事が万事この調子。それはそれは一生懸命自己主張します。確かに育てにくい子ではありましたが、私も妻も他人に迷惑をかけない限り認めてやることにしていました。自己主張する能力はあとからではつけることができないからです。このことを知っていれば、親の都合で子どもの自己主張を抑えつけなくてはならないときも、だいぶ対応が変わってくると思います。この子のこだわりは、小学校4年生になって料理になり、長じてはスノーボードに発展しています。

### 甘えとわがままたちを繰り返す子

両親の不和とか、事情があって一時よそに預けられていたなど、家庭内に問題があって、赤ちゃんから幼児期にかけて甘えの体験が足りないと、自我の満足感をとり戻したくて、甘えとわがままという大きな揺れになってあらわれることがあります。こうしたときはわがままたちも十分に受け入れてやらなければなりません。本人もおちやを言っているかわかっているのだから、手をかけてもらいたくてわがままたちを言っているのだから。発達というのは、一本のまっすぐな登り道ではなくて、ジグザグの道を進みます。幼い子どものわがままたちは戻り道の現象なのだとして理解してください。

